

施設実習における実習指導のあり方に関する一考察

—年度による比較調査からの考察—

大 屋 陽 祐 ・ 小 野 澤 昇 ・ 望 月 文 代

1. はじめに

1) 背 景

保育士養成課程では、必修科目として保育実習科目が設定されている。保育実習科目は、主に保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅱ（保育所）、保育実習Ⅲ（施設）に分かれており、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）は必修科目、保育実習Ⅱ（保育所）、保育実習Ⅲ（施設）は選択必修科目として設定されている。保育所で行う保育実習（以下、保育所実習と称す）や保育所以外の児童福祉施設などで行う保育実習（以下、施設実習と称す）の実習期間は、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準（2015）」によれば、おおむね10日間が設定されている。また、施設実習における実習対象施設について保育実習Ⅰの場合、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、独立行政法人国立重度知的障害者総合支援施設のぞみの園、児童相談所一時保護施設が実習対象となっている。保育実習Ⅲでは児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令に基づき設置されている施設あって保育実習を行なう施設として適当と認められるものが対象となっている。S短期大学では保育実習Ⅰにおいては、主に乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、独立行政法人国立重度知的障害者総合支援施設のぞみの園での実習を行っている。

施設実習に対する学生の不安について、大屋（2017）は、施設実習について障害者支援施設で実習する学生に焦点を当てて、実習に対する不安感について保育所や幼稚園、認定こども園等の環境は、学生の生活経験や学習体験の中において経験していることが多いが、障害者支援施設について経験している学生は少ないこと、また、利用者とのコミュニケーション経験の無さにより不安感が高くなることを指摘している。さらに先行研究（小倉ら2009、多田内ら2014）からは学生の施設に対する理解と実習指導の充実化の必要性が指摘されている。施設実習指導においては、より具体的な施設の概要や利用児・者のイメージができるような指導内容や実習先施設において実習前に事前体験等の経験が必要であることが考えられる。

しかし、施設実習に関する先行研究では、単年度による調査が多く、年度比較を行っている調査・研究は見当たらない。年度による比較検討を行うことは、学生の施設実習に対する不安の傾向を把握でき、より詳細な指導内容の改善につながると考えられた。

2) S短期大学における実習指導内容

S短期大学における施設実習指導の内容と主な学習方法について、Figure1に示す。実習事前指導として、実習の意義と目的、実習施設の理解を図り、各施設について詳細に学ぶとともに実習参加予定の施設種別について概要を説明し、履修学生が各自で実習予定施設について調査学習する時間を設けている。実習課題の立て方や実習目標の立案については、各施設種別の概要を説明した後

に施設種別に応じて分かれてディスカッションを通じて実習目標と実習課題の立案を行っている。実習事後指導では、施設種別に応じて実習での経験・反省等についてディスカッションを行う時間を設けている。

3) S短期大学施設実習期間

S短期大学では、各保育実習について実習期間を11日間以上90時間以上と設定している。

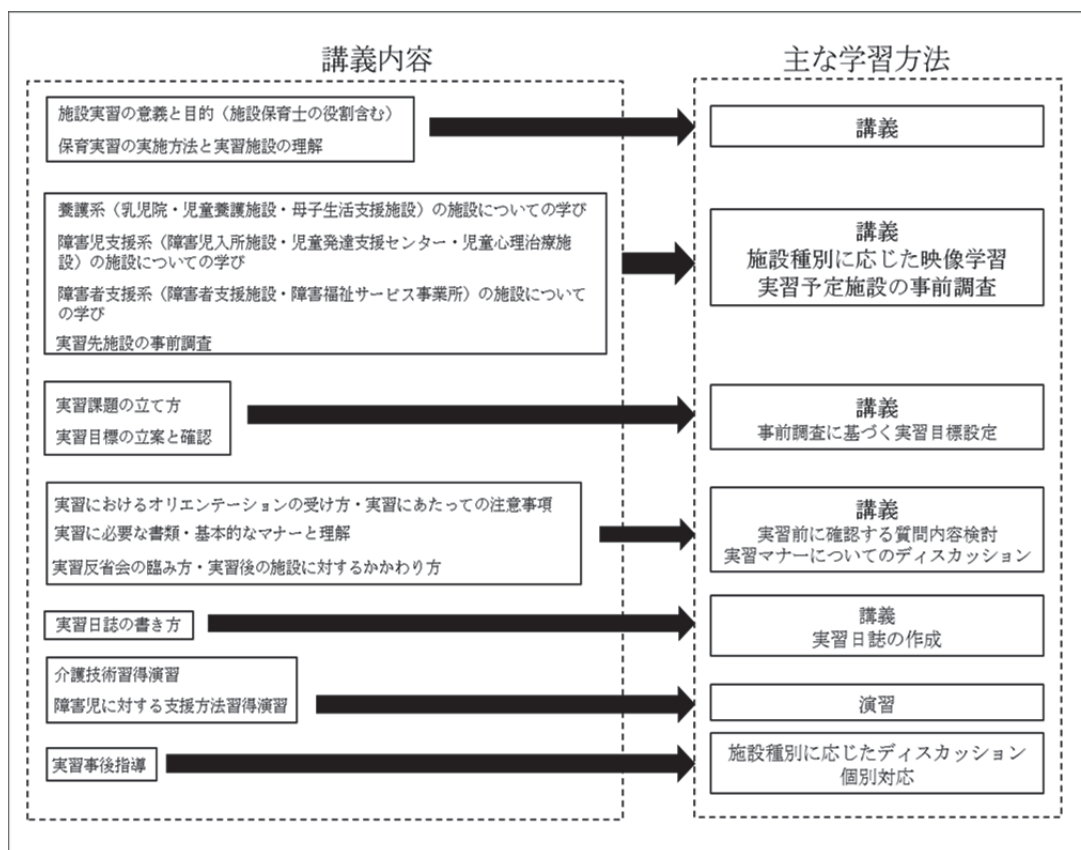


Figure1 施設実習指導における講義内容と主な学習方法

2. 目的

保育士養成課程における施設実習に関して学生の実習に対する実習前と実習後の意識について、今回は学生の実習に対する不安感に焦点を当て、年度比較から傾向を調査するとともに今後の実習事前事後指導の在り方について検討する。

3. 方法

1) 調査対象

保育士養成課程において保育実習 I（施設）を履修した2015～2017年度別のS短期大学2年生

2) 調査方法

質問紙法を用いた。

3) 調査期間

各年度、施設実習前と実習後に1週間ずつ期間を設けた。

4) 質問紙の作成

質問紙の表紙に調査の目的、回収した調査用紙の使用用途、個人情報の取り扱いについて明記し、調査に対する同意欄を設けた。

フェイスシートとして、「対象者の年齢」「対象者の性別」を尋ねた。

実習に関する質問項目は「保育実習指導のミニマムスタンダード（2007）」を参考にしつつ、予め25項目を設定した。設定した質問項目について、施設に勤務する職員に25項目の質問項目に対してより施設実習の実態に合わせた意見を盛り込むためのインタビュー調査を行った。その結果、質問項目を21項目に再設定した。なお、設定した質問項目は、施設実習を行なう上で気持ち及び準備について確認する項目を3項目、施設実習に対する学生としての心構えについて確認する項目を18項目設定した。

質問項目の評価方法は、質問項目に合わせて5段階評定をしよう求めた。

5) 調査手続き

調査対象に対して、本研究及び調査についての目的及び質問紙結果についての取り扱いについて説明し、調査に同意を得た学生のみ質問紙への記入を依頼した。

6) 倫理的配慮

調査を行なうにあたり、調査対象に対して本研究及び調査についての目的について説明した。また、質問紙にも本研究及び調査についての目的及び調査方法について明記し、調査に対する同意欄を設けた。そして、分析には、調査に同意を得た回答のみを採用した。調査中、回答者から調査に対する情報について閲覧の申し出及び資料の削除依頼がある場合は、可能な限り応じることとした。

4. 分析方法

分析には、IBMSPSS20.0を使用し、各年度の調査対象者の実習前と実習後の質問項目に対する評価を単純集計するとともに実習に対する実習前後の施設実習に対する不安感を確認する項目に焦点を絞りクロス集計を行った。

5. 結果

1) 回答者の情報

回答者の情報について、Table1に示す。全ての年度において、回収率及び有効回答率は100%であった。各年度の回答者における年齢幅については、19～21歳であった。

Table1 回答者の情報

	2015		2016		2017	
	調査人数	平均年齢	調査人数	平均年齢	調査人数	平均年齢
実習前	120	19.3	116	19.4	107	19.3
実習後		19.5		19.6		19.6

2) 施設実習に対する不安感について

施設実習に対して実習前に不安を感じるかについて、「1：ない」「2：あまりない」「3：どちらともいえない」「4：少しある」「5：ない」の5段階評価を求めた。また、実習後には実習後に実習を通して不安が軽減したかについて評価を求めた。結果についてTable2に示す。

Table2 施設実習に対する実習前の不安感と実習後の不安感の軽減

	2015 (n=120)		2016 (n=116)		2017 (n=107)	
	M	SD	M	SD	M	SD
実習前 (不安)	4.48	0.78	4.36	0.87	4.31	0.76
実習後 (軽減)	4.20	1.00	4.22	0.91	3.90	0.81

実習前において、各年度ともに実習に対する不安について4.30以上と評価しており、学生は、施設実習に対して強く不安を感じる傾向があることが明らかになった。また、実習後に不安が軽減したかについて2015・2016年度は4.20以上の評価をしており、実習を通して実習前の不安が軽減する傾向であることがわかった。2017年度は3.90と評価しており、2015・2016年度では不安の軽減が高く確認されたが、2017年度は評価4.00を下回っていた。

3) 施設実習に対する意識の傾向

各年度における実習前後の意識について、2015～2017年の結果を実習前についてTable3、実習後

についてTable4に示す。実習前の各質問項目に対する評価を確認すると「今回の保育実習（施設）に対して期待はありますか」「今回の保育実習（施設）のために何かしらの勉強や準備をしましたか」以外の19項目に対する評価が全ての年度で4.0以上の評価であった。

実習後の各質問項目に対する評価を確認すると「今回の保育実習（施設）のために何かしらの勉強や準備が必要でしたか」「明るくはきはきとした態度で実習に取り組みましたか」「実習にふさわしい服装や髪型ができましたか」「正しい言葉遣いで実習に取り組むことができましたか」「礼儀正しい態度で実習に取り組むことができましたか」「健康状態に注意することができましたか」「実習日誌は正しく作成できましたか」「実習担当者から指導された事柄をしっかりと実践することができましたか」「実習先施設の諸規定や指導された事柄をよく守れましたか」「提出物（日誌等）の提出期限を守ることができましたか」「今回の実習で施設の利用児・者について理解できましたか」「今回の実習で施設に勤務する職員の職

務内容や役割について理解できましたか」の12項目が全ての年度で4.0以上の評価であった。

実習前においては施設実習に対する学生としての心構えについて確認する項目として設定した18項目が全ての年度4.0以上の評価となっているが、実習後においては「大学で学んだ理論や技術を実践にいかすことができましたか」については全ての年度で評価4.0を下回った。また、「明るくはきはきとした態度で実習に取り組みましたか」「正しい言葉遣いで実習に取り組むことができましたか」「礼儀正しい態度で実習に取り組むことができましたか」「健康状態に注意することができましたか」「実習担当者から指導された事柄をしっかりと実践することができましたか」「周り（職員・利用者・学生など）と協調性を持って行動できましたか」「実習先施設の諸規定や指導された事柄をよく守れましたか」「利用児・者の生活支援や職業訓練などのサービスについて配慮できましたか」の8項目は評価が全ての年度で実習前の評価を下回っていた。

Table3 実習前における質問項目別評価

	2015 (n=120)		2016 (n=116)		2017 (n=107)	
	M	SD	M	SD	M	SD
今回の保育実習（施設）に対して不安な気持ちはありますか。	4.48	0.78	4.36	0.87	4.31	0.76
今回の保育実習（施設）に対して期待はありますか。	3.80	0.91	3.57	0.90	3.56	0.86
今回の保育実習（施設）のために何かしらの勉強や準備をしましたか。	4.17	0.82	3.66	0.93	3.64	0.92
明るくはきはきとした態度で実習に取り組みますか。	4.65	0.60	4.60	0.68	4.78	0.42
実習にふさわしい服装や髪型ができますか。	4.96	0.20	4.83	0.59	4.95	0.21
正しい言葉遣いで実習に取り組むことができますか。	4.68	0.52	4.59	0.72	4.79	0.43
礼儀正しい態度で実習に取り組むことができますか。	4.77	0.46	4.72	0.64	4.79	0.43
健康状態に注意することができますか。	4.61	0.63	4.49	0.79	4.64	0.64
実習生として実習目的をはっきり持っていますか。	4.45	0.66	4.28	0.82	4.43	0.62
実習日誌は正しく作成できますか。	4.28	0.81	4.07	0.87	4.41	0.64
実習で不明な点は質問ができますか。	4.40	0.68	4.23	0.78	4.46	0.59
実習担当者から指導された事柄をしっかりと実践することができますか。	4.58	0.64	4.47	0.73	4.64	0.54
周り（職員・利用者・実習生など）と協調性を持って行動できますか。	4.58	0.60	4.50	0.79	4.65	0.52
実習先施設の諸規定や指導された事柄をよく守れますか。	4.81	0.40	4.66	0.70	4.81	0.46
利用児・者の生活面における身の世話や配慮を行えますか。	4.41	0.75	4.34	0.80	4.54	0.65
利用児・者の生活支援や職業訓練などのサービスについて配慮できますか。	4.38	0.72	4.28	0.79	4.46	0.68
大学で学んだ理論や技術を実践にいかすことができますか。	4.23	0.73	4.09	0.80	4.45	0.60
提出物（日誌等）の提出期限を守ることができますか。	4.86	0.37	4.73	0.66	4.88	0.33
今回の実習で施設の利用児・者について理解できますか。	4.50	0.66	4.41	0.79	4.62	0.54
今回の実習で地域における施設の役割について理解できますか。	4.38	0.69	4.30	0.85	4.57	0.55
今回の実習で施設に勤務する職員の職務内容や役割について理解できますか。	4.38	0.65	4.38	0.82	4.61	0.51

Table4 実習後における質問項目別評価

	2015 (n=120)		2016 (n=116)		2017 (n=107)	
	M	SD	M	SD	M	SD
今回の保育実習（施設）を行ったことで不安な気持ちが軽減しましたか。	4.20	1.00	4.22	0.91	3.90	0.81
今回の保育実習（施設）は実習前の期待を満たすことができましたか。	4.08	0.91	4.08	0.84	3.80	0.83
今回の保育実習（施設）のために何かしらの勉強や準備が必要でしたか。	4.43	0.77	4.26	0.77	4.28	0.71
明るくはきはきとした態度で実習に取り組みましたか。	4.26	0.82	4.50	0.65	4.07	0.71
実習にふさわしい服装や髪型ができましたか。	4.76	0.66	4.84	0.45	4.56	0.72
正しい言葉遣いで実習に取り組むことができましたか。	4.43	0.75	4.57	0.61	4.22	0.79
礼儀正しい態度で実習に取り組むことができましたか。	4.49	0.69	4.67	0.54	4.26	0.72
健康状態に注意することができましたか。	4.51	0.86	4.74	0.63	4.33	0.84
実習生として実習目的をはっきり持てましたか。	4.13	0.82	4.28	0.68	3.87	0.75
実習日誌は正しく作成できましたか。	4.27	0.74	4.28	0.78	4.02	0.85
実習で不明な点は質問ができましたか。	3.95	0.92	4.22	0.82	3.87	0.95
実習担当者から指導された事柄をしっかりと実践することができましたか。	4.24	0.79	4.41	0.69	4.02	0.76
周り（職員・利用者・実習生など）と協調性を持って行動できましたか。	4.27	0.77	4.37	0.72	3.96	0.74
実習先施設の諸規定や指導された事柄をよく守りましたか。	4.55	0.65	4.64	0.60	4.24	0.71
利用児・者の生活面における身近な世話や配慮を行えましたか。	4.17	0.78	4.35	0.66	3.89	0.73
利用児・者の生活支援や職業訓練などのサービスについて配慮できましたか。	4.09	0.78	4.26	0.65	3.83	0.77
大学で学んだ理論や技術を実践にいかすことができましたか。	3.72	0.92	3.97	0.75	3.55	0.72
提出物（日誌等）の提出期限を守ることができましたか。	4.80	0.51	4.84	0.45	4.56	0.73
今回の実習で施設の利用児・者について理解できましたか。	4.40	0.64	4.51	0.63	4.16	0.69
今回の実習で地域における施設の役割について理解できましたか。	4.21	0.84	4.35	0.76	3.93	0.70
今回の実習で施設に勤務する職員の職務内容や役割について理解できましたか。	4.34	0.72	4.50	0.63	4.11	0.60

4) 施設実習に対する不安感の傾向

施設実習前における実習に対する不安感について、学生は不安感が高い傾向があることが考えられ、実習前の不安感の有無と実習後の不安感の軽減との関係性について分析を行った。分析は実習前に設定した質問項目「今回の保育実習（施設）

に対して不安な気持ちはありますか」と実習後に設定した質問項目の「今回の保育実習（施設）を行ったことで不安な気持ちが軽減しましたか」についてクロス集計を行った。結果について〈Table5〉に示す。

Table5 実習前の不安感の有無と実習後の不安感の軽減についてのクロス表

		実習後の不安な気持ちの軽減											
		しない			あまりしていない			どちらともいえない			少しした		
		2015 (n=120)	2016 (n=116)	2017 (n=107)	2015 (n=120)	2016 (n=116)	2017 (n=107)	2015 (n=120)	2016 (n=116)	2017 (n=107)	2015 (n=120)	2016 (n=116)	2017 (n=107)
ない	選択人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	nに対する割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
あまりない	選択人数	0	0	0	1	1	0	1	1	2	2	1	1
	nに対する割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.9%	0.0%	0.8%	0.9%	1.9%	1.7%	0.9%	0.9%
実習前の不安な気持ち	選択人数	0	0	1	1	0	1	1	1	1	5	4	
	nに対する割合	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.9%	0.9%	4.3%	3.7%	
少しある	選択人数	1	0	0	3	2	2	2	2	9	6	12	24
	nに対する割合	0.8%	0.0%	0.0%	2.5%	1.7%	1.9%	1.7%	1.7%	8.4%	5.0%	10.3%	22.4%
ある	選択人数	0	0	0	6	4	2	7	13	11	28	17	27
	nに対する割合	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	3.4%	1.9%	5.8%	11.2%	10.3%	23.3%	14.7%	25.2%

クロス集計の結果、質問項目「今回の保育実習（施設）に対して不安な気持ちはありますか」において「4：少しある」を選択した学生は、質問項目「今回の保育実習（施設）を行ったことで不安な気持ちは軽減しましたか」について、「4：少しした」を選択する学生が2015年：6名、2016年：12名、2017：24名であり、「5：した」を選択する学生は2015：26名、2016年：18名、2017年：13名であった。実習前に実習に対して不安を少し抱えた学生の内、70%以上が実習後に不安が軽減したと選択したことが明らかになった。

「5：ある」を選択した学生は、質問項目「今回の保育実習（施設）を行ったことで不安な気持ちは軽減しましたか」について、「4：少しした」を選択する学生が2015年：28名、2016年：17名、2017：27名であり、「5：した」を選択する学生は2015：32名、2016年：31名、2017年：8名であった。実習前に実習に対して不安を抱えた学生の内、60%以上が実習後に不安が軽減したと選択したことが明らかになった。

6. 考 察

1) 実習に対する不安感についての対応

2015～2017年度のどの年度においても実習に対する不安感が高い傾向が確認でき、実習前の不安を軽減することは実習指導としての課題であることが考えられた。また、実習前の不安を軽減する方法として、実習前の不安感の有無と実習後の不安感の軽減についてのクロス集計の結果から、不安が「少しある」もしくは「ある」を選択した学生の内、60%以上の学生が実習後に不安が「少し軽減した」もしくは「軽減した」と評価していた。宮崎ら（2008）は学生の施設実習における社会福祉施設に対する印象は、実習前と比較して実習後の方がポジティブな印象に変化することを報告しており、本調査においても3年間の調査結果の傾向から施設実習前の不安感の実習を通すことで軽減されること推察され、体験に基づく学習が不安

の軽減に大きく影響していることが推察された。

これらのことから実習指導において学生自身が各施設種別や具体的な種別に応じた実習内容を具体的に実感でき、学生の抱く不安感を軽減できる学習方法の改善が必要であることが考察された。そのためには、種別に応じた映像学習に加えて、学生が主体的に実習施設を調査できるような学習環境の提供が検討された。

2) 施設実習に対する意識の傾向

施設実習について学生の実習前後における意識の傾向について、単純集計から2015～2017年度で同傾向の評価が確認できた項目は、実習前では19項目であり、実習後では10項目であった。

施設実習のための勉強や準備の必要性について、実習後では強く必要であると考えられる傾向が確認でき、この結果は全般的な施設種別の概要だけでなく、学生自身が行う予定の施設種別や施設におけるサービス内容についての学びを深め、利用児・者の状況や障害特性について学習できる環境の提供が必要であることが考えられた。また、大学で学んだ理論や技術の実践について、実践性が低いことが明らかになり、実習に向けた学習と準備の必要性とも相互に関係性について検討を行い、学生が大学での学びを実習と結び付けられるような授業展開が必要であることが考察された。

大屋（2017）は、実習事前指導において施設種別の詳細な情報提供と利用児・者に対する具体的な支援方法、施設実習以外の科目での学習成果を実習にいかせるような一貫した学習支援の必要性を示唆しており、本調査においても年度傾向からさらに施設種別に応じた詳細な指導内容の充実について必要性が考察された。

7. 今後の課題

今回の調査から、施設実習において学生は実習前に強い不安感を感じる傾向であることが推察された。今回の質問紙では、実習前の質問項目にお

いて、実習に対して不安を感じる場合にどのようなことに不安を感じるかについて要因を自由記述で求めている。今後は、今回の調査・分析で得られた結果に加えて実習に対する不安の要因を質的な分析から明らかにする必要がある。また、今回は実習に対する不安感に焦点を当てて分析を行った。今後はその他の質問項目についても実習前と実習後での評価の違いについての検討も行うことが実習における実践内容の充実につながると考える。

施設実習は実習を行う場合、保育所実習のように特定された施設種別ではなく、様々な施設種別で実習を行うため、全ての学生が同種別の施設で実習を行うことは難しい。そのため、施設を利用する利用児・者には年齢や発達等による違いがあり、乳児院、児童養護施設等では利用児の年齢層は、乳児期から児童期であり、障害者支援施設や障害福祉サービス事業所では利用者の年齢は成人期、さらに障害児入所施設や児童発達支援センターではサービスを利用する障害対象によっては利用児・者の年齢層が幅広い等の違いもある。したがって、各施設種別によっても実習に対する不安感には違いがあることが考えられる。そのため、施設種別に応じた実習に対する不安要因を明らかにすることで、保育実習指導における授業改善につながると考えられる。

8. 謝 辞

本調査にご協力賜りましたS短期大学保育士養成課程を履修する学生に深く感謝申し上げます。

付 記

本調査・研究は、平成29年度育英短期大学教育改革推進奨励制度の助成を受けた成果の一部である。ここに記して謝意を表する。

9. 引用・参考文献

- 宮崎隆徳・吉川明守・宮越敏夫（2008）. 保育系短大生における施設実習後の施設イメージの変化. 新潟青陵大学短期大学部研究報告. 38, 175-181.
- 小倉毅・土谷由美子（2009）. 保育士養成課程における施設実習に関する課題—アンケート調査からの一考察. 中学学園紀要. 8, 77-87.
- 大屋陽祐（2017）. 施設実習に対する実習前後の意識変容に関する一考察—短期大学生に焦点を当てた調査から—. 育英短期大学研究紀要. 34, 29-36.
- 大屋陽祐・小野澤昇・望月文代（2017）. 保育実習における施設に対する学生の意識についての一考察—障害者支援施設を中心とした施設から—. 第70回日本保育学会要旨集.
- 多田内幸子・重永茂（2014）. 施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査. 久留米信愛女学院短期大学紀要. 37, 69-76.
- 全国保育士養成協議会（2007）. 保育実習指導のミニマムスタンダード—現場と養成校が協働して保育士を育てる. 北大路書房.

